

磐城春秋

第四十五號
 行發日四十月二十年一十二和昭
 社 秋 春 城 磐
 八六番八四路平
 人刷印行發報
 水 報 刊 活
 所 版 刷 活
 (行發土週毎)
 【錢十五部一價定】

高山氏の去就未だ不明

なほ、柴田氏は左の如く語る

高山氏の商工會議所脱退問題は九日の議員会で馬目武之助氏他二名の交渉委員を擧げ慰留交渉を行ったが、高山氏は「話は良くわかつたが、脱退は社員と相談の上で行つたのであり、復讐するに矢張り社員と相談の上で御返事したい」と答へ、現在高山氏の去就は明瞭でない。尙柴田徳二氏は左の如く語つてゐる。

「山崎氏が會頭でないならば、辭める等と云ふのは馬鹿馬鹿しい話だ。山崎氏がなれば商工會議所はやつて行けないのか。會議所は希望者の賛成で出来た物で合理的に多數決で運営されねばならぬ。多數の意見に従ひたくなく少數の意見を通さうとする者は辭めて貰ふより方法がない。是は難に訊いても當然の事だ。その意味でやめた者はやめ

大映提供
 探偵時代劇
阿修羅姫
 十七日・廿三日
 平市 聚樂館

人物紹介 (35)
古川傳一氏
 温雅な文學者とも云ふべき

古川傳一氏といふ名前がかつてから熟知してゐるが、今春の平第三國民學校に於ける合同政見發表演說會で、その聲を聴いた以外親しくその聲を聴く機会を得なかつた。去る九月偶然その温雅に接するを得た。

古川氏は聲中から東京の東北中學を卒業し、東京大學で經濟學を修めて、當時から文學少年であった。その時、地方政治家に珍らしい讀書家としての面影がある。その讀書の趣味は、なるほどその讀書を見るに自分が眞を繰つて讀んだ。結婚生活を圓満にささへてゆく。

△吉田内閣打倒の勢を團體が來春の選挙をめぐりて、統一して活動的な動きを見せてゐる。寒さに震へてゐる民衆、インフレーションに恐怖を覚えてゐる民衆、それは單なる待遇改善等の經濟問題ではなく政治的解決が根本だ。

△或人曰く「若い女は結婚期成熟期を作つて政府に迫るべきだ」。豈若し女性のみならず、若い男性も結婚するには金も物もないのだ。否結婚してゐる者もその

平局辯論會

平郵便局勞務組青年部の第一回辯論會は七日午後二時より開催。出席者十一名から次のやうな入賞者があつた。

- 一等 スクラムのありかた
- 二等 インフレーション問題について 菊池英彦
- 三等 辯論の必要 大河原ミツヨ

商工會議所 會頭諸橋氏

以下役員決定
 採りに採らぬ平商工會議所の會頭問題は九日平市役所

の第二會議室で開催された議員總會で會頭諸橋久太郎氏、副會頭阿部政右衛門、野崎滿藏、理事上田善次郎、濱宮一、強口唯七、佐藤源吉、佐藤直之介、正木昌次郎、吉田勝彦、森榮太郎の八氏、監事に柴田徳二、鈴木條三郎の二氏と決定、やうやく陣容が整つた。流石に會頭以下役員は選定には苦心のあとがうかがはれる。

六丁目の火事

八棟十四戸
 十四日午前十一時半平六丁目大塚アンプル工場より出火、附近の家屋八棟十四戸を焼失し十二時二十分鎮火した。原因は同工場で作業中ガスが石油に引火したもの損害目下調査中

各種印刷

電話三〇二番へ
 平市一丁目 平活版所

大和田活版所

電話二二九番
 平市仲町二十三番地

新設裁断速成科

裁断法 入門 毎月
 規程書御申込次第
 平市公園踏切際
 タニス洋裁研究所

近火御見舞御禮

平市 正町月
磐城自動車工業株式會社
 平市六丁目區内會

大塚 駒太郎

平市立町
内木外科醫院
 内木 宗八
 平市大町二番地
 電話六八三番

祝創刊一週年

共同電氣株式會社特約店
百澤機械店
 百澤 易重
 電話九七一番
 平市四丁目(局前)

阿康告知板

冬の病氣(シモヤケ、ヒビ)の豫防は今から
 ① 肝油球(ルキミンAD)
 ② 皮膚保護薬
 ③ 感冒、セキ薬
 右衛生資材準備に御利用下さい
阿康藥局
 平市田町(郵便街)
 電話四十四番

女工募集

若干名 給面談
正木織物店
 平市新町二丁目
 電話八一三番

越乃家

平越乃家
 通館平
 烹制的文化
越乃家
 屋理料な輕氣
 ◎御宴會
 ◎御商談
 地番三四目二市平
 番九八八話電

文藝 投稿歓迎 可紙上匿名

書籍 高價に載ります 平市五丁目 片寄書店

感想 二つ

木下雁次

生きる爲の道徳

九日の毎日新聞に掲載された渡邊恵氏の「アメリカの哲學」といふ紹介記事の中に「米國の文明批評家ルネ・マッソーの近著「原于時代の道徳」(一九四六年發行)正確なる原書名は「生きる爲の道徳」(原書名は「生きる爲の道徳」)とある。著者の意見を簡単にいふと現在の如き道徳標準を以てしては人類は原子時代には破滅する他はない。今後の道徳標準はどうか。今この人類の危機に生きながらへるかといふことによつてのみ定まる。極端にいへば道徳は人類が生存するための手段と考へられてゐるのである。道徳を至高不變の理想と考へる立場から見れば、これは主客顛倒であり危機に直面した時のヒステリックな理想といへるかも知れない。しかし私はここにアメリカ的な考へ方の特徴的な現れを見たい」とある。道徳は生きながらへるための手段であるといふ物の考へ方は現に我々は我々の周囲に見ても事實ではなからうか。この新しい観点に立つて物を見ないで教員ゼネストにも理解が持てないし、警察官吏の生活に喘いでゐる民衆取締の根本も納得できないであらう。生きることに最高の價値なのだ。

世は是皆空

奮闘全書の中で傳道の書といふのを自分は好んで讀む。一寸鴨の長明の方丈記のやうな感じのする文だが實におもしろい。「正しい人間が悪い人間の遣ふやうな不幸な目に見舞はれることがある。悪い人間が正しい人間の遣ふやうな不幸運にあたりつゝあることもある。世の中のことは全くわけがわからん。結局うまいもので食べて生活を楽しむより他はない。空なる生命の可愛さや悲しさや苦しさが空なるこの人生でお前の勞苦によつて得た分である。このやうに生きることを最高の道徳だといふやうなことを述べてゐる。

週間録音

川前村の供米完遂 川前村では郡下のトップを切つて供米割當三百八十七俵を廿五俵突破して完遂した。追放退職となる永山忠二村長が後任村長に仕事を残したくないといふ所から馬力をかけたものである。

石城郡助役會結成 郡下の町村助役は廿七日平公會堂で助役會を結成、地方制度改正に伴ふ町村長公選と供米完遂に努力する。

季節風の被害 廿七日夕刻から襲つた北西の猛烈な季節風のため小名濱港碇泊中の漁船八隻が大中破の被害を受けた他各地被害があつた。

關の女檢舉 平署では五日市内鎌田町飯塚ゆき子(二六)六町目山崎やす(二八)大浦村玉野よし(二七)(何れも假名)をほじめ十數名を檢挙取調べを行つたが彼女等は市内白銀町の某家を根拠にナイトクラブ的な組織を持ち桃色遊戯に耽つてゐた。

石炭會館 東部石炭礦業會では廿八日の理事會で工費二百萬圓で來年八月迄に平市に石炭會館を建設する事に決定。

守備賞は田中君へ 平の早慶戦、ラッキスタ対三友クラブ定期野球第一回は今年度納會として八日平商グラウンドで舉行、結局十三對十二で三友クラブが惜敗したが両チーム共往年の古強者揃で勝敗そのものよりも美技續出しファンを喜ばせた。

問題のホームラン賞は星野上坂、三振賞は岡、星野、

守備賞は田中君へ

平の早慶戦

ラッキスタ

三友クラブ

定期野球

第一回は

今年度納會

として八日

平商グラウンド

で舉行、結局

十三對十二

で三友クラブ

が惜敗したが

両チーム共往年

樂團「白樺」

守備賞は田中、投手賞は吉田の各君がそれ〴〵獲得した。なほ兩チームは親睦を目的として毎年春秋二回定期戦を行ふことになつた。

すべて我々の日常生活は一定のリズムによつて順調に運営されてゐる。歩く事、手先の事は始め微細なるリズムの補助は偉大なるものがある。人間の感情は先づ聲か或は身振りに現れてくる。其の感情の聲に現れたのが即ちリズムであり音楽なのである。人間の世界に限らず生物の進化の続く限り音楽は缺くべからざるものがある。又音楽は人間の感情、技術、目的等の現實の制約を受ける事が最も多いのである。物象にとらはれることなく思ふ存分の羽ばたきする事が出来る。美の表現の構成が容易であることに音楽が人の魂をして揺り動かす事が多いのではあるまいか。そしてここに生れたのが「樂團白樺」である。とかく樂團と云へば華やかな浮々とした場面を想像するでせうが寧ろ藝術の嚴格さから云へば反對である。「白樺」はかかれては

がされても寒き野邊に楚々として生れたのが我々である。たりない樂器を集め、又は借り、破れた樂器をつくらひながら毎夜静かな寒さに圍まれて生れた「白樺」はあくまでも純白な心魂の樂園である。人を最も感動させるものは心胸より出づる言葉である。人を最も感動させるものは心胸より出づるリズムである。我々は未熟なる故もつと勉強致しまして平市の皆様のため少しも貢献出来れば幸甚の至りです。(長谷川)

就職案内

平勤勞所より 旋盤工男一名 三ヶ年以上経験者 二十五歳以上四十歳以下 第一、第三日曜休 給面通 通勤 通勤 優遇 七時半〜四時半 通勤 優遇 平市正月町 菊地鐵工所 旋盤工男三名 十八〜二十五歳 住居 但し夜間持参ノット 手取月收六千圓以上 志操堅固ナル者 泉村大字下川上 高木万平 女事務員二名 十八〜二十五歳 位迄 學歷不問 經理ニ多少経験ヲ有スル者 毎日曜休日 ナルベク 近距離ノ通勤ヲシ得ル者 平市 紺屋町十八番地 元住吉屋支店 向ヒ 日本製鐵製作所平營業所 女工員三名 十五〜二十二歳 國卒 未経験ニテ可 八〜四時 休日二回 ナルベク市内通勤者 月收百五十圓 平市月見町二十八 桑原アングル工場

久野電機工業所

平市二丁目九番地 電話 平七二二番 振替東京三〇〇番

星製藥株式會社

福島工場 平市五丁目二八番 電話 六六八番 三五三番

新星硝子工業株式會社

平市仙町 電話 七一四番

神谷工業原料株式會社

社長 神谷兼次郎 平市田町五五番 電話 六六五番

大床婦人部

平市田町銀座通り 電話 新設五五二番

文房具部

平市香匠町一(藤橋關庫裏) 連絡所 務城春秋社 電話 四十八番

みどり商會

平市香匠町一(藤橋關庫裏) 電話 四十八番

御手輕な御食事

電話 五九〇番 平市三丁目一番地

食堂 米久

電話 五九〇番 平市三丁目一番地

「少年の町」役場

鈴木傳明 平市公會堂前 電話 六〇三番

福島縣指定事業重點工場

平硝子製作所 平木工製作所

社長 佐藤幸太郎

事務所 平市新田町二六 電話 七一四番 五五七二番 東京事務所 東京都芝区新橋二ノ三(島森ビル) 電話(分)四八三二番 工場 電話 二九二・二七三 三八九・八三五・三五〇

新設 小型自動車修理部

ダットサン ダイハツ マツダ くるがね 三浦商會 平警察署前通り 電話 八六四番

株式會社ホシ薬舖

平市三丁目五番 電話 四二九番

株式會社製作所

社長 鈴木賢二 平市堂前四番 電話 四一四番

診療科目

内科 外科 眼科 耳鼻科 産婦人科 レントゲン科

厚生省指定病院

日本醫藥團平病院 電話 六〇八番 八一番 平市十五丁目

福島縣指定自動車整備主要工場

磐城自動車工業株式會社 平市五月町 電話 三七〇番 四九〇番

原桑士理代務

計理士 原桑徹 事務所 平土揚市 電話 一八五番